

（以下）は、新キャンパス建設の現状と経緯について述べます。

新キャンパス建設の現状と経緯

（以下）は、新キャンパス建設の現状と経緯について述べます。

東広島市西条町の面積約252haの新キャンパス用地に医・歯・薬学関係を除いた学部・研究所等の統合移転が進められていることはご承知のとおりです。将来を展望して、総合大学としてひとつの理想的なキャンパスの建設に努めています。

現在は工学部（昭和57年）及び生物生産学部（昭和63年）が移転している。両学部ともそれぞれ2年次後期からの講義、実験、実習等の授業を新キャンパスで実施しています。教育学部は平成元年後期から新キャンパスで授業を開始する予定になっています。これまでのところ、工学部の場合学生の約70%が東広島市へ居を移しています。これらの学生は320名分の学生宿舎と一般的の間借りか、バス・トイレ付きのワンルームを借りて生活して

学部等移転年次計画表

区 分	昭和 54年度 7/10/1	55年度 7/10/1	56年度 7/10/1	57年度 7/10/1	58年度 7/10/1	59年度 7/10/1	60年度 7/10/1	61年度 7/10/1	62年度 7/10/1	63年度 7/10/1	平成 元年度 7/10/1	2年度 7/10/1	3年度 7/10/1	4年度 7/10/1	5年度 7/10/1
事務局・学生部															
国書館				■							■	■	■		
総合科学部												■			
文学部												■			
教育学部												■			
学校教育学部												■			
法学部												■			
経済学部												■			
理学部												■			
工学部	■	■													
生物生産学部												■			
農場	■	■	■												
理論物理学研究所												■			
体育学部															
各種センター類・附属施設		■													
その他															

— 建物整備期間、△ 移転時期

工学部 門田博知

（統合移転実施計画委員会専門委員会委員長）

（以下）は、新キャンパス建設の現状と経緯について述べます。残念ながら、ワンルームの借り賃は広島市よりも高くついています。これらのはほとんどが、工学部の移転時やその後に新築されたため、家賃が割り高になっています。

また、広島からの通学にはJR山陽本線が利用され、広島大学の東千田町キャンパス付近からは片道1時間半位はかかります。山陽本線八本松駅か、西条駅で下車しますと、バスの接続はよく、15~20分程度でキャンパスに着きます。広島から、単車や自動車で通っている学生もいますが、数は多くありません。昭和63年には山陽自動車道が大野から西条まで開通し、広島市中心部から1時間で西条キャンパスに確実に到着できるようになりました。

日常生活のうえで、西条のバスは広島市のように便利ではありません。間借りやワンルームの場所もバスに便利な所は少ないようです。したがって、単車や自動車をもつ学生が増えています。西条に移って始めて、単車や自動車に乗るようになるため、10月、11月には未熟な運転が目立ちます。単車でカーブが曲がりきれず転倒するものもいます。ヘルメットの着用や未熟なうちは速度を落とすことを忘れてはいけません。

本学の統合移転は諸般の事情のため遅れてしましましたが、工学部、生物生産学部及び教育学部に統いて、学部等移転年次計画表のとおり、理学部、総合科学部、文学部、学校教育学部、法学部と経済学部の順で移転が進められる予定です。

なお、法学部、経済学部第二部は広島市に残るよう検討が進められています。

新入生から、現在広島大学は便利なところにあるのに、どうして西条へ移転するのか、という質問を受けます。たしかに、東広島市は、広島市にくらべて人口は10%以下の小さい市で、都市施設や文化施設も十分ではありません。

広島大学は昭和24年総合大学として発足以来、キャンパスが分散し、蛸の足大学といわれてきました。

また、とくに新入生が一般教育を受ける東千田町キャンパスには、文学部をはじめとして5学部の建物がところ狭しと建ち、スポーツを楽しむスペースはもちろんのこと、新しく教育・研究の施設を整備することは不可能となりました。さらに、大学の研究においても専門性の深化と総合性指向とを重視し、境界領域の分野も大いに研究を進めることが重要になっています。このためには、各学部や部局が別々のキャンパスにいるよりも、一つのキャンパスにいる方がよいことも明らかです。教育や研究以外にも、学生の人格形成のうえで、課外活動の果たす役割も見逃す訳にはいきません。スポーツをはじめとして各種の課外活動のための空間も狭くなっています。

これらの理由で、キャンパスの統合と新キャンパスの建設が必要であるとの結論に達し、新キャンパス敷地探し始められました。広島市内やす

ぐ近傍で熱心に候補地を見出す努力が続けられましたが、地形的な制約のため、十分余裕のある面積の敷地を求めることができませんでした。西条新キャンパスは、自然環境に恵まれていますが、広島市中心部から約36km離れている点は残念なことです。しかしJR駅間距離は、東京一横浜間28.8km、大阪一神戸間33.1kmに対して広島一八本松間は25.8km、広島一西条間は31.8kmで広域都市圏としては中心都市からさほど遠くありません。新幹線東広島駅も開業し、先述の山陽自動車道の西条以東や新広島空港の建設も着々と進んでおります。東広島市では広島中央テクノポリスの主要都市として人間と自然の調和のとれた学園都市を目指し、商店街再開発、工業団地や住宅団地の開発等のまちづくりが進められています。また、西条キャンパス北側の下見地区では学生街のまちづくりが本年から本格的に始まります。さらに近畿大学工学部が呉市から東広島市高屋町に近々移転することがきました。

このように東広島は数多くのプロジェクトがあり、内陸部の中心都市として発展する努力を続けています。

新キャンパスの計画は自然環境の調査から建物に至るまで、専門の先生方と事務局とが一体となって、全学をあげて進められています。また、新キャンパスの計画や建設は下記の5項目を基本目標として具体化し、反映していくことを前提としています。

- (1) <総論 大学改革の実践の中で、ひとつの理想的なキャンパスの建設>
- (2) <教育・研究 全人間的な価値創造の場の創出>
- (3) <施設環境 自然と人工の所産との魅力的な調和>
- (4) <開かれた大学としての機能 地域的、国際的要請に対応する諸機能の整備>
- (5) <移行過程における配慮 予想される現実的な諸課題との対応を十分配慮した新キャンパス計画の策定>

新入生の方は早い機会に西条キャンパスを訪ねられることを希望します。